様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２７ 日現在

機関番号：３２５０６
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｈ０１５６９

研究課題名（和文）多世代パネルデータを活用した社会的・地理的移動とライフコース研究

研究課題名（英文）Social and geographic mobility and life-course: Studies using multi-generational panel data

研究代表者
黒須　里美（Kurosu, Satomi）

麗澤大学・国際学部・教授

研究者番号：２０２２５２９６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　9,700,000円

研究成果の概要（和文）：　近世東北日本の人別改帳をベースとした多世代パネルデータを用い、飢饉や経済的ストレスなどの外的要因が庶民のライフコースに与える影響を探った。地理的情報を加えた分析により、町村出身者と転入者の違いが明らかになり、世帯の社会経済的地位や同居家族の有無などに示される社会的支援や紐帯が個人を死亡や移動から守っていたことが判明してきた。さらに、データベースを拡充し、天気や稲の作況、移動に関する質的資料を整理することで、より大きなサンプルでの詳細な分析を目指した。また、本研究をより大きな文脈に位置付けるべく、東アジアや東ヨーロッパなどを含む他社会・人口との比較研究を試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究の学術的意義は「究極」のパネルデータともいえる長期に継続する世帯ベースの人口資料を体系的・実証的に活用したことである。人別改帳は国勢調査に動態情報(出生・結婚・死亡など)を加えたような世帯単位の人口資料であるが、その中でも長期継続し地理的移動情報を含むデータを活用し、天明・天保の飢饉などの影響を受けた人口に学際的に迫り、時間軸と空間軸を交えた新しいアプローチの可能性が提示できた。また、人口減少に直面しつつも、村や家族がどう継承されてきたのかを描くことで、近視的な家族の見方からより巨視的・長期的な視点で家族と社会構造を捉えることができ、未来にむけての示唆が得られた。

研究成果の概要（英文）：Using multi-generational panel data based on the population registers of early modern Northeastern Japan, we examined the impact of external factors such as famine and economic stress on the life course of commoners. Through the analysis incorporating geographical information, differences between natives and migrants became evident, although the role of social support and bonds indicated by household socioeconomic status and co-residing family members were important for protecting all individuals from mortality and migration. Furthermore, we expanded the database of population registers and organized qualitative materials related to weather, rice crop conditions, and migration, aiming for more extensive analysis with a larger sample size. Additionally, to contextualize our study, we conducted comparative research with other societies and populations, including East Asia and Eastern Europe.

研究分野：社会学

キーワード：ライフコース　歴史人口学　パネルデータ　東北　災害　宗門人別改帳

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

結婚、移動、死亡などの人々のライフコース(生き様)に影響を与えるものは身近な家族や近親者であり、さらに私たちを取り巻く社会経済的環境である。さらにこの環境は経済変動や自然災害を含む「危機」を孕んでいる。外的要因とライフコースのつながりを探る本研究開始当初の背景には 3 つの学術的発展がある。

第一に、世界的に歴史人口ビッグデータの構築と、イベントヒストリー分析などの多変量解析を用いたモデル開発によってライフコース研究が大きく飛躍した。特に研究代表者と研究分担者津谷が 20 年来取り組んできた 5 ヶ国 7 地域(スウェーデン、ベルギー、イタリア、中国、日本)の国際比較研究(Eurasia Project、以下、EAP)は、これまでクロス集計などの記述的統計や生命表分析に留まっていた前近代庶民のライフコース研究に、イベント生起の要因として村落・コミュニティや世帯の社会経済分析を追加した点で画期的であった。しかしこの比較研究における日本の貢献は東北農村 2 ヶ村に限られ、より大きなサンプルでの分析が待たれていた。

第二に、歴史人口データを利用した実証的研究の進展の中で、日本においては地理的移動の研究の萌芽がみられた。海外で類例がない史料の特性を生かし、GIS 分析を応用した移動分析の試みや、近世後期における遠距離婚や奉公の特徴と変化を東北地域の人別改帳や地方文書で検証する研究が始まった。本研究の東北地域の多世代パネルデータと移動情報を照合し活用することで、これらの試みを実証的に発展させる事ができる。

第三に、危機への人口学的レスポンスの研究が新たな段階を迎えていた。これまでの危機と人口変動の研究には賃金や食物価格の変動などを含む外的要因の影響としてのタイムシリーズ分析、または大きな危機があった後にその影響を見る探索的分析が多く、経済的な変動の影響と死亡危機の影響を融合した人口学的レスポンスの検証や、「危機」の指標化の必要性があった。

これらの学術的研究背景を踏まえ、「究極」のパネルデータともいえる長期に継続する世帯ベースの人口資料を体系的・実証的に活用すること、GIS を利用した地理的アプローチなどから時間軸と空間軸を交えた新しいアプローチを提示すること、さらにデータベースを拡充し稲の作況などの質的資料を結びつけることなどを目指し本研究がスタートした。

２．研究の目的

本研究の目的は、近世日本の人別改帳をベースとした多世代パネルデータを用い、近代以前の社会的・地理的移動の実態とその構造を明らかにすることである。この目的に以下(A)～(C)の 3 つのアプローチで迫る。(A)東北地域を中心とした多世代パネルデータを活用し、EAP モデルを発展させる形で、庶民の家族・ライフコースと社会的・地理的移動の関係を探る。 (B)人別改帳をベースとしたデータベースの拡充、気象・天気や稲の作況、そして移動に関する質的資料の整理を行う。また分野横断的なそれらの情報のリンクを図る。(C)日本と同様に質の高いデータで多世代研究の進む東アジア、移動研究がスタートした東ヨーロッパを含む他社会・人口との比較研究を試みる。EAP の国際比較の方法に基づき、近代以前のいわゆる家族主義文化圏の人口行動の共通性を探る。

３．研究の方法

令和元年より 4 年間の研究期間を予定し、研究分担者 3 名、国内研究協力者 2 名、国外研究協力者 2 名の体制で、研究目的にあげた(A)家族・ライフコースと社会的・地理的移動分析、(B)データベースの拡充と質的資料の整理、またそれらのリンク、(C)比較研究を並行して行う。具体的には以下の方法をとる。

(A) 家族・ライフコースと社会的・地理的移動分析：福島県の 4 町村 (1708-1870 年)の多世代パネルデータベースを利用し、EAP モデルを用い、個人の属性、世帯の社会経済的地位(持高)、同居家族、地域経済(米価)の人口への影響を解明する。また、GIS を利用した地理的情報を加えたモデルを開発し、郡山と郡山周辺農村を起点とする 18-19 世紀の移動の変容を可視化する。地理的情報を加えた分析から多角的にライフコース研究に迫る。

(B)データベース拡充と質的資料の統合：①より複雑な分析を可能にするためのサンプルを増やす目的で、東北地域の史料の整理とデータベース化を行う。②４町村データから新潟県(越後)からの婚姻・奉公・労働移動が非常に多いことが判明している。そこで人口供給元の村落構造を理解するために越後国頸城郡など 67 ヶ村(1685-1866 年)の入力と整理を進め、基礎統計を算出する。③歴史資料から、人口・経済情報以外の地理移動や飢饉・災害情報、気象・天候情報、稲の作況などの質的・量的情報を整備し、これらの情報について(A)の多世代パネルデータを利用した分析に統合するモデルを検討する。

(C)東アジア・東ヨーロッパとの比較研究：長期多世代パネルデータが構築されている中国の遼寧省（1749-1900 年）との比較分析を試みる。また、ヨーロッパには珍しい詳細な移動情報を持つ南ボヘミア地域の移動情報について、その作成背景と資料の詳細を確認し、比較研究の基盤作りを行う。さらに人口減少社会という人口学的共通の基盤を持つ現代人口との比較も検討する。

４．研究成果

(A) <u>家族・ライフコースと社会的・地理的移動分析</u>：

①人別改帳をベースとした二本松藩（現在の福島県）の多世代パネルデータベース（Xavier Data）について、構築までのプロセスを整理し、ミクロデータとしての特長を明らかにするとともに、Xavier Data を利用した研究サーヴェイを行った(黒須 2020, Kurosu&Takahashi&Dong 2021)。また『統計』の特集号「歴史人口学の地平線」と題して資料、イベントヒストリー分析の方法、そして「結婚」をテーマに EAP モデルの適用した 18-19 世紀東北日本と東北中国の分析をまとめた（高橋 2021, 津谷 2021, 黒須 2021, Dong2021）。これらの研究サーヴェイや系統的な史料・方法論・分析のまとめによって、内外の研究者に日本の特筆すべき多世代パネルデータの存在を示すとともに、現代人口学・社会学的研究の可能性を示すことができた。

②福島県の 3 町村(1716-1870 年)については、EAP モデルをベースとした多変量解析によって結婚、死亡、移動などライフコースへの影響の分析を進め、より日本の家族制度に即した分析を試みた。系統的な比較によって、経済的中心の在郷町と周辺農村におけるライフコースの相違と類似性が明らかになった。例えば、初婚のタイミングは明らかに農村で早く、町型と農村型の結婚パターンの違いが確認されたが、イベントヒストリー分析では、地域の経済状況や、世帯の経済状況と同居家族が、初婚のタイミングに与える影響に多くの類似性も確認された。農村も町場も、タイムラグはあるものの、地域の経済指標である米価が上がると初婚は遅れ、世帯の社会経済的地位が高いほど男女ともに初婚は促進された（黒須

2021）。また、EAP モデルに対して東アジアにおける出生順位の重要性や、同居親族の重要性をモデルに組み込めたことで家族制度の影響についても理解を深めることができた（黒須 2021, Dong 2021）。この他に、日本の伝統社会の特徴である流動的な結婚（離婚・再婚）を系統的にまとめたこと、養子制度と養子の生存確率分析を行い、実子と養子の死亡リスクの差を明らかにしたこと（Dong＆Kurosu 2021）は、大きな成果であり、家族制度と人口学的行動のつながりを理解する視点を提供できた。

③史料の地理的情報を加えることで、分析の視点にこれまでにない空間的広がりを加えることができた。郡山上町と周辺農村を基点とした転入・転出地理的情報を活用したこれまでの基礎的分析を整理し、GIS を利用した郡山と郡山周辺農村を起点とする 18-19 世紀の移動の変容を可視化した。江戸時代の人口移動が、かつて、他領との移動を制限する藩法などにもとづいて、閉鎖的性格が強調されていたが、結婚・奉公・労働移動などで人々の遠距離を含めた移動が明らかになってきた（川口 2022, 長岡・黒須・高橋 2020）。当時の人々にとっての経済圏や結婚圏、藩・郡という行政区、あるいは地理的条件などを加味し、時間軸を加えた移動の可視化が今後の課題である。

もう一つの成果は、これらの地理的情報と多世代パネルデータの人口情報を照合して活用を試みたことである。外的要因としての飢饉と短期経済的ストレス（米価）をモデルに組み込み、多項ロジットモデルを利用し、世帯の社会経済的地位や結婚関係をコントロールした上での出身地の影響を探るモデルを開発した（黒須・高橋 2022, Kurosu&Takahashi&Dong 2022）。この分析によって出身地と死亡・移動・欠落というイベントの関係性が明らかになったことにより、ライフコースと地理的移動の研究の今後の道筋を立てることができた。転入者の属性を加味したモデルの精緻化、米価に変わる経済指標の開発、長期的な影響の検討が今後の課題である。

(B)<u>データベース拡充と質的資料の統合</u>：まず、データベースや質的資料の可視化を図るために、メタデータベースの整備を行い（黒須 2020）、検索プログラム（https://www.pfhp-japan.info）の拡充を図った。これによって史料の整備状況が可視化でき、入力準備のための作業を格段に飛躍させることができた。入力作業としては、①東北地域分析のためのサンプルを増やす目的で、3 タイプの作業を進めた。(a)羽前国（山形県）山家村と岩代国（福島県）南杉田村史料の続柄とイベントを中心とした分析用ファイル構築前のデータクリーニング、(b)二本松藩（福島県）の大槻村や本宮村などを中心とした、長期継続型だけでない人別改帳の活用価値を発見し入力前の準備を整え、(c)さらにその一部（岩瀬郡大桑原村・安達郡片平村など）の入力を進めた。

②次に、福島県への人口供給元である新潟県（越後国）の人口構造を理解するために、頸城郡・蒲原郡宗門改帳を利用した個人情報の連結や、個人・世帯情報の修正更新を行った。約 67 ヶ村の人口基礎情報を完成し、これらのデータから史料自体の偏りなどの問題点を探った。単年史料から長くは 81 年継続する史料もあるが、可視化してみると、1680-1870 年の間で、1710 年代後半を除いて各年代にデータは分布しているが、特に 1820-40 年代にデータが集中していることがわかった。また、人口性比は 17 世紀では 120 を超過し、男性比率が異常に高いが、18 世紀以降は平常値の 105 に近いところで推移しているので、東アジアの史料で特有な女性の過小登録という問題はない。55 歳未満の年齢グループでも平常値に近く、男女差による登録の偏りはないことがわかった。これらのデータをまとめ、18 世紀以前と以後とで人口ピラミッドを描いてみると、10 歳未満の不十分な登録部分はあるもの

の、ピラミッド型を維持している様相が明らかとなった。しかし、登録もれの多い 10 歳未満の子ども数によって出生率の間接指標（Child-Woman-Ratio）は予想外に低かった。今後このような登録漏れの問題を克服していかにこのデータを活用していくかが課題である。

③さらに質的史料として、陸奥国会津郡金井沢村における稲の作況記録の翻刻を行い、その成果を『日本文化史研究』に 3 年に渡って掲載した（川口 2023,2021,2020）。さらにその成果をベースに、上中下田の 1 坪の籾収量を実測した東北地方最長・最古の史料とされる金井沢村の稲の作況史料データベースを完成した。また新たに「陸奥国守山藩御用留帳」にある天気の記録のデジタル化の試作をはじめた。このほかに、天候、飢饉、凶作、米価など外的要因間の関係性やその人口への影響を探った成果として、気候変動と人口・世帯の推移の地域生（高橋・黒須　2020）、人口と飢饉（高橋 2021）、人口と自然災害（川口 2021）、天候と米価・飢饉（市野他 2020, Ichino et al.2023）などがあげられる。今後これらの成果や新たにデジタル化された作況史料をいかに（A）のモデルに組み込んでいくかが新たな課題となる。

(C)<u>東アジア・東ヨーロッパとの比較研究</u>：上記の成果を歴史的かつ比較的文脈に位置付けるための比較研究、またそのための基盤作りとして 3 つの成果が挙げられる。①東北日本と東北中国：子どもの死亡確率を中心に、東アジア内での比較を試み、家族制度によるきょうだいの影響の類似性と相違性を明らかにした(Dong&Kurosu&Lee 2019)。また初婚分析では（黒須 2021, Dong 2021）、家父長制度の強い中国と日本では単純に数だけでなく、出生順位が重要だという点を示すことができた。　②南ボヘミア地域：南ボヘミア独自のセンサスタイプの資料は、歴史人口学的な分析で活用できる非常に精密なものであることが判明したがそのデータベース化作業にはまだかなりの時間が必要である。その資料の存在の背景に、これまでの経済史研究で明らかにされてきたエルベ川以東の住民の隷属的な社会制度の議論だけでは決して解明できない論点が明らかになりつつある (村山&Grulich 2020)。③このほかの比較として、アジア・ヨーロッパの結婚に関する研究をまとめ、結婚を中心としたアジアとヨーロッパの文献調査を行い、その成果を英国 Bloomsbury 社のシリーズの一環として刊行した (Kurosu&Wijeshinhe 2019)。また現代人口との比較として、初婚のイベントヒストリー分析による 18-19 世紀徳川農村と現代のサーヴェイデータを利用したオリジナリティのある分析比較も試みた(Tsuya&Kurosu 2019)。

以上の研究成果について、すでに論文として出版されたもの以外にも、日本人口学会、WEHC (世界経済史学会)、IUSSP (国際人口学会)セミナー、SSHA (社会科学史学会)などで口頭発表を行い、査読論文として複数国際的学術雑誌へ投稿準備中である。このほか、研究代表者・分担者で執筆した『歴史人口学の課題と展望』（日本人口学会報告書　2022 年）（4,5,8,17,18 章)は今後さらに改良を加えて出版予定である。また、移動情報を利用した多世代パネルデータ分析の成果は Springer からの英文叢書として準備中である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計30件（うち査読付論文　9件／うち国際共著　4件／うちオープンアクセス　15件）

１．著者名 Kurosu Satomi,Takahashi Miyuki,Dong Hao	４．巻 11
２．論文標題 Thank You, Akira Hayami! The Xavier Database of Historical Japan	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Historical Life Course Studies	６．最初と最後の頁 112～131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.51964/hlcs11113	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 Dong Hao, Kurosu Satomi	４．巻 26
２．論文標題 Gendered survival differentials of adopted children in northeast Japan, 1716-1870	５．発行年 2021年
３．雑誌名 The History of the Family	６．最初と最後の頁 583～601
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/1081602X.2021.1961095	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 川口　洋	４．巻 54
２．論文標題 十八世紀中期から二〇世紀初頭の陸奥国会津郡金井沢村における稲の作況記録　下　－室井家文書「作毛位付帳」（明治六年から大正五年まで）－	５．発行年 2023年
３．雑誌名 日本文化研究	６．最初と最後の頁 143-192
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Ichino Mika, Masuda Kooiti	４．巻 10
２．論文標題 Rekiske: Interdisciplinary platform for sharing knowledge and experience of Japanese historical documents	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Geoscience Data Journal	６．最初と最後の頁 63-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/gdj3.148	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 黒須里美	4．巻 72(7)
2．論文標題 近世東北日本の結婚システム：二本松藩町村の事例	5．発行年 2021年
3．雑誌名 統計	6．最初と最後の頁 17-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 津谷典子	4．巻 72(7)
2．論文標題 近世日本人口史料のイベントヒストリー分析	5．発行年 2021年
3．雑誌名 統計	6．最初と最後の頁 10-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高橋美由紀	4．巻 72(7)
2．論文標題 歴史人口研究のためのデータ	5．発行年 2021年
3．雑誌名 統計	6．最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Dong Hao	4．巻 72(7)
2．論文標題 19世紀中国東北地方における結婚の分析：男性の初婚に及ぼす家族の影響	5．発行年 2021年
3．雑誌名 統計	6．最初と最後の頁 24-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 川口　洋	4．巻 53
2．論文標題 十八世紀中期から二十世紀初頭の陸奥国会津郡金井沢村における稲の作況記録 中 ー室井家文書「作毛位付帳」（享和元年から天保十一年まで）ー	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本文化史研究	6．最初と最後の頁 167-211
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Murayama Satoshi	4．巻 14
2．論文標題 Environmental Humanities: a Long-Term Local History Approach to Living Spaces	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Journal of Kagawa University International Office	6．最初と最後の頁 260-268
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57372/00009750	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kurosu Satomi, Grulich Josef	4．巻 44(2)
2．論文標題 Japonska historicka demografie a vyzkumy rodiny v predmoderni. Venovano pamatce jejiho zakladatele Akira Hayami (22. 10. 1929-4. 12. 2019)(Japanese Historical Demography and the Family Studies at Pre-modern Times. Dedicated to the Memory of its Founder Akira Hayami (22. 10. 1929 - 4. 12. 2019))	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Historicka demografie	6．最初と最後の頁 217-249
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 黒須里美	4．巻 56
2．論文標題 歴史人口学：追悼　速水融とユーラシアプロジェクトからの20年	5．発行年 2020年
3．雑誌名 人口学研究	6．最初と最後の頁 71-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24454/jps.2003006	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 川口　洋	4．巻 52
2．論文標題 史料紹介・翻刻　十八世紀中期から二十世紀初頭の陸奥国会津郡金井沢村における稲の作況記録　上　－室井家文書「作毛位付帳」（宝暦九年から寛政十二年まで）－	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本文化史研究	6．最初と最後の頁 153-205
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 市野 美夏，増田 耕一，北本 朝展	4．巻 -
2．論文標題 れきすけ：歴史ビッグデータに関する知識と経験を共有する異分野間協働プラットフォーム	5．発行年 2020年
3．雑誌名 じんもんこん2020論文集	6．最初と最後の頁 31-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Ichino Mika, Masuda Kooiti	4．巻 10
2．論文標題 Rekiske: Interdisciplinary platform for sharing knowledge and experience of Japanese historical documents	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Geoscience Data Journal	6．最初と最後の頁 63～72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/gdj3.148	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 黒須里美	4．巻 18(2)
2．論文標題 麗澤アーカイブズの近世人口経済資料：速水融氏寄贈資料のメタデータベース構築	5．発行年 2020年
3．雑誌名 言語と文明	6．最初と最後の頁 27-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 長岡篤，黒須里美，髙橋美由紀	4．巻 18(2)
2．論文標題 近世東北における陸奥国二本松藩町村の人口移動の空間的広がり	5．発行年 2020年
3．雑誌名 言語と文明	6．最初と最後の頁 17-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Tsuya, Noriko O., Satomi Kurosu	4．巻 12
2．論文標題 Patterns and Factors of First Marriage: A Comparative Analysis of Early Modern and Contemporary Japan	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Keio IES Discussion Paper Series	6．最初と最後の頁 WEB
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計65件（うち招待講演　5件／うち国際学会　32件）

1．発表者名 Kurosu Satomi, Takahashi Miyuki, Dong Hao
2．発表標題 Were Migrants Healthier than Non-migrants in the Past? A Case of Urban Population in Early Modern Northeastern Japan
3．学会等名 The IUSSP International Seminar on Migration in the Past（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 Kurosu Satomi, Dong Hao
2．発表標題 Household Context, Socioeconomic Status, and Migration in Early Modern Northeastern Japan
3．学会等名 World Economic History Congress（国際学会）
4．発表年 2022年

１．発表者名 Dong Hao, Kurosu Satomi, Lee James Z.
２．発表標題 The Making of Missing Girls: Hierarchical Sibling Effects on Child Survival in Northeast China and Japan, 1706-1909
３．学会等名 World Economic History Congress（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 黒須里美，髙橋美由紀
２．発表標題 人口移動と健康－近世東北在郷町の死亡分析－
３．学会等名 日本人口学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 津谷典子，黒須里美
２．発表標題 近世東北農村における経済状況と世帯属性の人口行動への影響
３．学会等名 日本人口学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Tsuya Noriko O., Kurosu Satomi
２．発表標題 Patterns and Covariates of Migration in Early Modern Japan: Evidence from Two Northeastern Villages, 1716-1870
３．学会等名 The IUSSP International Seminar on Migration in the Past（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Tsuya Noriko O., Kurosu Satomi
２．発表標題 Demographic Responses to Economic and Household Conditions in Tokugawa Japan: Evidence from Three Northeastern Villages, 1708-1870
３．学会等名 Social Science History Association（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 川口　洋
２．発表標題 天保4（1833）年凶作後の陸奥国会津郡における死亡危機
３．学会等名 日本人口学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Murayama Satoshi, Terao Toru
２．発表標題 Early modern decision making in East Asia: Japan’s organic economy in Takahama in the Amakusa Islands, Kyushu, 1793-1818
３．学会等名 American Society for Environmental History（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Ichino, Mika, Masuda Kooiti, Mikami Takehiko, Takatsuki Yasuo
２．発表標題 Variations in the Distribution of Solar Radiation in Japan During the Tempo Famine Period as Reconstructed from Historical Weather Descriptions
３．学会等名 Annual conference of Association for Asian Studies（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Kurosu Satomi, Dong Hao
２．発表標題 Household Structure, Socioeconomic Status, and Migration in Early Modern Northeastern Japan
３．学会等名 European Society of Historical Demography（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Tsuya Noriko O., Kurosu Satomi
２．発表標題 Household Socioeconomic Status and Mortality in Early Modern Japan: Evidence from Three Northeastern Villages, 1716-1870
３．学会等名 IUSSP 2021 International Population Conference（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kurosu Satomi, Dong Hao
２．発表標題 Household Context, Socioeconomic Status, and Migration in Early Modern Northeastern Japan
３．学会等名 Social Science History Association（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 津谷典子，黒須里美
２．発表標題 近世東北農村における人口移動のパターンと要因
３．学会等名 日本人口学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kurosu Satomi
２．発表標題 Famine and Mortality in Early Modern Northeastern Japan
３．学会等名 Population Association of Taiwan（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kawaguchi Hiroshi
２．発表標題 Arranged Marriage and Female Labor in the 19th Century, North-eastern Japan
３．学会等名 International Anniversary Workshop on Families, Powers and Dependencies, Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kawaguchi Hiroshi
２．発表標題 Mortality Crisis after the 1833 Cold Weather in Northeast Japan
３．学会等名 East Asian Environmental History（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Murayama Satoshi
２．発表標題 Environmental humanities: a long-term local history approach to living spaces
３．学会等名 The European Japan Experts Association（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 津谷典子，黒須里美
２．発表標題 世帯の社会経済的地位と死亡：近世東北 3農村の事例
３．学会等名 日本人口学会第72回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 長岡篤，黒須里美，髙橋美由紀
２．発表標題 近世東北における陸奥 国二本松藩町村と越後国との人口移動
３．学会等名 日本人口学会第72回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Kawaguchi Hiroshi
２．発表標題 Arranged Marriage and Female Labor in the 19th Century, North-eastern Japan
３．学会等名 European Social Science History Conference（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 村山聡，Grulich Josef
２．発表標題 18世紀後半の東欧・南ボヘミアにおける冷夏と不作の環境史：再版農奴制の人口学的再検討
３．学会等名 日本人口学会第72回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Kurosu Satomi
２．発表標題 Mortality Response to Famine and Economic Stress in Urban Area: A Case from Early Modern Japan
３．学会等名 Urban Affairs Association 49th Annual Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kurosu Satomi, Dong Hao Dong, Takahashi Miyuki, Hayami Akira
２．発表標題 Constructing Individual-Level Longitudinal Data for Japanese Historical Population: Challenges and Opportunities
３．学会等名 Social Science History Association（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 黒須里美
２．発表標題 18‐19 世紀の飢饉・短期経済変動と二本松藩の人口
３．学会等名 日本人口学会関西地域部会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Kawaguchi Hiroshi
２．発表標題 Population decline after the 1783 great famine in the Oku-Aizu region
３．学会等名 The Fifth Biennial Conference of East Asian Environmental History（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 川口　洋
２．発表標題 18-19世紀の会津・南山御藏入領における天候・作況・農業・人口
３．学会等名 日本人口学会第71回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Dong Hao, Kurosu Satomi, Lee James Z.
２．発表標題 Hierarchical Sibling Effects on Child Survival in East Asia: A Comparative Within-Family Study of Two Populations from Northeastern China and Japan, 1716-1909
３．学会等名 IUSSP Historical Demography Seminar on Kinship and Reproduction in Past Societies（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 長岡篤，髙橋美由紀，黒須里美
２．発表標題 近世東北の人の移動：二本松藩町村の比較
３．学会等名 日本人口学会第71回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 市野 美夏
２．発表標題 日射量でみる天保期‐日記天候記録を用いた気候復元‐
３．学会等名 日本人口学会第71回大会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計13件

1．著者名 井上 孝，和田 光平（第2章「天明期の冷害に伴う人口変動」川口 洋執筆）	4．発行年 2021年
2．出版社 原書房	5．総ページ数 272
3．書名 自然災害と人口	

1．著者名 平井　健介，島西　智輝，岸田　真　（「人口と飢饉」pp.6-9 高橋美由紀執筆）	4．発行年 2021年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 346
3．書名 ハンドブック日本経済史	

1．著者名 津谷 典子，菅 啓太，四方 理人，吉田 千鶴（編）（分担執筆　津谷典子　序章、黒須里美　２章）	4．発行年 2020年
2．出版社 慶應義塾大学出版会	5．総ページ数 384
3．書名 人口変動と家族の実証分析	

1．著者名 中塚 武，鎌谷 かおる，佐野 雅規，伊藤 啓介，對馬 あかね（編）（分担執筆　髙橋美由紀　pp.274-280）	4．発行年 2021年
2．出版社 臨川書店	5．総ページ数 338
3．書名 気候変動から読みなおす日本史　第1巻	

1．著者名 中塚 武，鎌谷 かおる，渡辺 浩一（編）（分担執筆　髙橋美由紀，黒須里美 pp.51-96）	4．発行年 2020年
2．出版社 臨川書店	5．総ページ数 296
3．書名 気候変動から読みなおす日本史　第5巻	

1．著者名 秋田　茂，脇村　孝平（編）（分担執筆　村山聡　2章）	4．発行年 2020年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 392
3．書名 人口と健康の世界史	

1．著者名 Paul Puschmann (ed.) (分担執筆　Kurosu Satomi, pp.77-93)	4．発行年 2019年
2．出版社 Bloomsbury Academic	5．総ページ数 235
3．書名 A Cultural History of Marriage in the Age of Empires (1800-1920), Series Volume 5	

1．著者名 比較家族史学会，小島 宏，廣嶋 清志（編）（分担執筆　髙橋美由紀　2章）	4．発行年 2019年
2．出版社 日本経済評論社	5．総ページ数 328
3．書名 人口政策の比較史　せめぎあう家族と行政	

１．著者名 Okuda Nobuko, Takai Tetsuhiko (Eds.) (分担執筆　Takahashi Miyuki pp.3-31)	４．発行年 2019年
２．出版社 Springer	５．総ページ数 147
３．書名 Gender and Family in Japan	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	津谷　典子 (Tsuya Noriko) (50217379)	慶應義塾大学・大学共通・教授 (32612)	
研究分担者	川口　洋 (Kawaguchi Hiroshi) (80224749)	帝塚山大学・文学部・教授 (34601)	
研究分担者	村山　聡 (Murayama Satoshi) (60210069)	香川大学・教育学部・名誉教授 (16201)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	高橋　美由紀 (Takahashi Miyuki) (50361845)	立正大学・経済学部・教授	
研究協力者	董　浩 (Dong Hao)	北京大学・Center for Social Research・Assistant Professor	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	市野　美夏 (Ichino Mika) (40376968)	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構・データサイエンス共同利用基盤施設・特任助教	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	Peking University			
チェコ	University of South Bohemia			